礼拝説教（2019年3月3日）

説教者：中村信哉

奉仕の働き

エペソ人への手紙4章7-16節

はじめに

私たちの教会は、今年から月ごとのテーマを決めています。1月は「ディボーション」、2月は「礼拝」、3月は「奉仕」になります。この月ごとのテーマは、クリスチャンの成長にとって欠かせない要素を取り扱っています。ディボーションも礼拝も奉仕も、私たちがクリスチャンとして成長するために必要なことです。

毎月第一主日の説教では、月ごとのテーマに沿って説教をすることになっていますので、今日は「奉仕」についてお話したいと思います。

1. 牧師の役割

教会の奉仕には、色々な奉仕がありますが、まず牧師の奉仕から考えてみましょう。11-12節にはこうあります。**「こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです」。**

イエス様は、使徒や預言者、伝道者や牧師、教師を立てられました。これらの人々はどれも、聖書を語る人、福音を語る人です。つまり御言葉を語る人です。

イエス様はなぜ牧師などの御言葉を語る人を立てたのでしょうか。それは、「キリストのからだ」を建て上げるためです。「キリストのからだ」とは、教会のことです（エペソ1：23）。

では、牧師はどのようにキリストのからだである教会を建て上げていったらよいのでしょうか。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせることによってです。つまり信徒たちを御言葉によって整え、奉仕の働きへと導いていくことによってです。

キリストのからだである教会は、牧師が御言葉を語ることだけでは建て上げられません。信徒たちが整えられて奉仕の働きをすることによって建て上げられていくのです。

教会の主役は、牧師ではなく信徒たちです。牧師はあくまでも、信徒たちが整えられて奉仕の働きをするために仕える者に過ぎません。教会は、信徒たちが活き活きと奉仕の働きをしてこそ、キリストのからだと言えるのです。

教会がもし、御言葉を聞くだけのところであるとしたら、キリストのからだとは言えません。教会がただ御言葉を学び、慰められ、励まされるだけのところであるなら、キリストのからだは死んでいると言わざるを得ません。キリストのからだである教会は、御言葉を聞くだけでなく、信徒たちが活き活きと奉仕の働きをしているところなのです。そうでなければ、

キリストのからだが生きているとは言えないのです。

牧師の役割は、信徒たちに活き活きとした奉仕の働きへと導き、キリストのからだを建て上げることです。そのためにこそ牧師は、御言葉を語るのです。牧師はあくまでも脇役です。信徒たちが奉仕の働きで活躍するのを、御言葉を通して支えるのです。

2. 信徒の役割

イエス様は、キリストのからだを建て上げるために、牧師には御言葉を与えられました。ではイエス様は、キリストのからだを建て上げるために、信徒たちには何を与えられるのでしょうか。7節にはこうあります。**「しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました」**。

イエス様は、私たちひとりひとりに賜物を与えてくださっています。その賜物を用いて奉仕の働きをして、キリストのからだを建て上げるためです。私たちひとりひとりは、キリストのからだの一部です。必ず何かの賜物が与えられていて、キリストのからだを建て上げる役割が与えられています。

私たちは皆、イエス様から与えられている自分の賜物は何かを考えるべきです。そしてキリストのからだを建て上げるために、自分には何ができるかを考えるべきです。私たちひとりひとりは、イエス様を信じた時からキリストのからだの一部です。私たちは毎月、聖餐式のパンを食べるごとにキリストのからだの一部であることを覚えているのです。

しかし私たちひとりひとりに与えられているイエス様の賜物は、みな同じではありません。イエス様の「量り」に従って与えられています。ある人には多く、ある人には少なく与えられています。ある人には人前で目立つ賜物を、ある人には人前では隠れた賜物を与えられます。

しかしイエス様は誰か一人に、キリストのからだを建て上げるために必要なすべての賜物を与えることはなさいません。ひとりひとりに少しずつ分け与えられるのです。一人では決してキリストのからだは建て上げられません。ひとりひとりが自分に与えられた賜物を活かし、互いの足りない所、欠けている所を補い合わなければ、決してキリストのからだは建て上げられないのです。

キリストのからだである教会は、何でもできる有能な人に奉仕を任せるところではありません。ひとりひとりがイエス様から与えられた賜物を活かし、互いの欠けを補い合って建て上げるところです。私たちは、イエス様から与えられた賜物を土の中に埋めていてはなりません。キリストのからだである教会は、ひとりひとりがイエス様に与えられた賜物を活かして、少しずつ奉仕していく時に建て上げられていくのです。

ですから私たちの教会は、すべての人が何か一つでも奉仕をしてほしいと思います。どんな小さなことでも構いません。教会学校や礼拝の奏楽、聖歌隊や食事の準備などはできないかもしれません。しかし皿洗いや掃除、チラシ配布はできるかもしれません。また家で教会のために祈ること、献金を通して教会を支えることができるかもしれません。大きな声で賛

美することで礼拝を豊かにすることもできるかもしれません。私たちはひとりひとりキリストのからだの一部です。イエス様から与えられた賜物を無駄にしてはなりません。あなたのどんな小さな奉仕でも、キリストのからだを建て上げるために必要な奉仕なのです。

3.「キリストのからだ」として成長する

教会は、キリストのからだです。人間の体は、子どもから大人になるまで成長していくように、キリストのからだである教会も、成長していくのです。13節にはこうあります。「**私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです**」。

キリストのからだである教会は、キリストに向かって成長し、子どもから成熟した大人になっていかなければなりません。

では、子どもの教会とはどんな教会でしょうか。それは14節にあるように、「**人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た教えの風に、吹き回されたり、もてあそばれたり**」してしまう教会です。つまり世の中の価値観に惑わされたり、異端の教えに惑わされてしまう教会です。

では逆に、成熟した大人の教会とはどんな教会でしょうか。それは、「**神の御子に対する信仰と知識において一つとなっている**」教会であり、15節にあるように「**愛をもって真理を語る**」教会であり、16節にあるように「**愛のうちに建てられる**」教会です。

教会は、子どものままではいけません。成熟した大人の教会を目指していかなければなりません。それは必ずしも信徒の数が増えるとか、礼拝の人数が増えるということではありません。教会の成熟は、信仰と知識において一つとなっていることです。そのためには、牧師が語る説教に耳を傾けなければなりません。自分一人で聖書を読むだけでは、信仰と知識において一つとなることはできません。自分は他の教会で十分訓練を受けてきたから、この教会の説教を聞かなくても大丈夫というわけでもありません。教会が成熟するためには、信仰が深く知識が沢山あればよいというのではありません。教会が成熟するためには、信仰と知識が一つとなることです。そのためには、イエス様によって立てられた牧師が語る説教に、一緒に耳を傾けることが大切なのです。

また教会が成熟するためには、愛をもって真理を語らなければなりません。イエス様は恵みとまことに満ちておられました（ヨハネ1：14）。そのからだである教会も、恵みとまことに満ちていなければなりません。恵みとまことは、福音のメッセージに満ちています。教会が成熟するためには、人々に福音を語る教会にならなければなりません。人々に伝道する教会にならなければなりません。この教会の地域、徒歩20分圏内の地域には、五万人が住んでいます。そのほとんどの人が、イエス様の福音を知らず、福音を一度も聞いたことがない人がほとんどでしょう。私たちの教会は、ひとりひとりに与えられている賜物を活かして、それぞれが奉仕の働きをして、何とか五万人の人に福音を伝えなければなりません。

また教会が成熟するためには、愛において成熟しなければなりません。私たちはそれぞれ

イエス様から賜物を与えられています。しかしそれらの賜物は、皆の益となるために与えられているものです（Ⅰコリント 12：7)。また互いに仕え合うために与えられているものです（Ⅰペテロ 4：10)。それぞれが与えられている賜物は、自分のためではなく、誰かのために用いる時に初めて活かされるのです。そして教会の中でその賜物を活かし、誰かを助けるため、誰かを支えるためにそれを用いる時、キリストのからだが建て上げられるのです。

おわりに

私たちの教会は、1992 年に創立した教会です。キリストのからだとしての年齢は、まだ 27 歳です。27 歳と言えばまだ若く、これからもっと成熟していかなければならない年齢です。イエス様も、約三十歳から公の働きを始められました。キリストのからだである私たちの教会は、まだまだ成熟していかなければなりません。

そのために、①牧師が語る説教に対して皆で一緒に耳を傾け、信仰と知識において一致しましょう。②イエス様によって与えられた自分の賜物を見出して、誰かの益となるため、教会を建て上げるために用いて、たとえ小さな奉仕でも活き活きと奉仕しましょう。そして、地域に住む五万人の人にイエス様の福音を伝えていきましょう。